会　　報
通巻 140号　発行日　2023.06.11

Der Wind
（風）

湘南日独協会
Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan
事務局:〒251-0025 藤沢市鵠沼石上 1－1－1
江ノ電第2ビル7F
Tel:0466-26-3028 Fax:0466-27-5091
E-mail: jdgshonan.official@gmail.com　https://jdg-shonan.ciao.jp/

新年度の運営について

湘南日独協会　　会長　島　新

昨年４月に会長に就任して以来、はや１年が経ちました。長かったコロナ禍に押し込められていた雰囲気から、ようやく解放され、明るい気分になって来た今日この頃です。皆様にはいかがお過ごしでしょうか。まだ、第9波が来ると予測されており、まだまだ油断はなりません。

このような中で、湘南日独協会の諸活動は、活発に行うことが出来ました。これは、会員皆様のご支援、会員外の方でも多く参加いただいた皆様、そして、これら諸活動の運営に携わった役員の皆様、お手伝いを頂いた方々、皆様のおかげと感謝し、ここに改めて御礼を申し上げます。

昨年度実施した主な行事、活動を振り返ってみますと、

1. **行事**

   レストランを借り切っての「SWZドイツ語で歌おう会・オクトーバーフェスト」（10月）、藤沢市民会館での「ミニコンサート」（10月）、藤沢市国際交流フェスティバルへの出店、参加（10月）、鎌倉市国際交流フェスティバルへの参加（11月）

2. **月例の諸活動**

   例会・講演会、音楽史の講座、Stammtisch（ドイツ人も参加のおしゃべり会）、SWZ（ドイツ語で歌おう会）、ドイツ文学原書読書会（月２回）、ドイツ語講座（初級、中級１，２）（土曜日、オンライン。今年度は対面とオンラインを交互に実施）

今年度も昨年と同様な活動行事を実施します。7月19日にレストランを借り切って「Bierfest」を実施します。ビール、ワイン、料理と共に、ドイツの歌もたのしみます。ぜひ、ご参加ください。

また、最近４月には、全国日独協会連合会総会があり、連動して、ドイツ大使館でのレセプションがあり、当協会から３名出席しました。各協会の発表を聞きましたが、手前味噌ながら、当協会の活動は、なかなか活発な方ではないかと思います。

本年は、当協会創立２５年周年にあたり、来年にはその記念事業を計画しております。しかし、ここで協会として大きな問題に直面しております。会員および役員の老齢化が進んでおり、さらに役員のなり手がいないことです。このままでは、会に期待されて入会されていても、皆様に十分な、あるいは、全く、催しや活動を提供できなくなります。

そこで、この紙面をお借りして、皆様に是非ともお手伝い頂きたい、出来れば役員になって頂きたい。お手を貸して頂きたいとお願い致します。そのお気ちを少しでもお持ち頂けたら、ぜひ下記にご一報ください。是非お願いたします。

E-mail:　jdgshonan.official@gmail.com

大使公邸でのレセプション：中央がフォンゲッツェ大使、向かって右から２番目が島会長

２月例会　講演会

「ドナウ河の源流を訪ねて」

講師　西澤英男　湘南日独協会監事
ヨーロッパ歴史研究家

会員　島　　新

西澤英男さんは、90歳近いお年であるが、こちらのお願いを快くお受け下さり、20年前の、ドナウ川の源流への旅を詳しく懐かしくお話し下さった。奥様とご一緒にお出かけになり、お二人合わせて134歳であられたという。永年、銀行マンとして勤務され、退職された後はフウテンの寅さんの気分で、ドイツ、イタリアなどを自由気ままに旅れ、これはその中のひとこまである。

ドナウ川の源流は、３か所あり、いずれもドイツ南部の黒い森（Schwarzwald）地域にあって、それぞれについて説明された。その中で、ドナウエッシンゲンが観光客も行きやすいところでもあって、一番有名であるが、「これが源流？」と思わせる街の中にある。いわゆる山の奥地ではない。

それは、直径１０メートルほどの石とコンクリートで囲まれ、きれいな水で満たされたた泉である。斎藤茂吉が大正13年（1924年）4月にここを訪れていて、その時の歌のブロンズの歌碑が後に近くに建てられた。歌は、ドイツ語訳もつけられて下記のようになっている。

大き河　ドナウの遠き　みなもとを
尋めつつぞ来て　谷のゆふぐれ　　茂吉

（Die Donau des grosse Unterwegs auf der Suche nach ihrer fernen Quelle Abenddämmerung im Tal）

私も、ここには２度ほど来ているが、歌碑のことは全く知らず、又、気が付かなかった。

ドナウ川は、ここよりさらに上流のブレク川（Breq）とブリガッハ川（Brigach）が合流する地点から、ドナウ川と呼ばれる。講師の西澤氏は、このいずれの源泉も訪ねておられる。そして、この３か所の源泉の内、ブレク川の源泉が、地理上のドナウ川の源流とされている。ドナウエッシンゲンより、４０ｋｍ程上流のフルトヴァンゲンの町の奥にある。私も、ドイツにいた時に山歩きの仲間と訪れたことがあるので、一層懐かしく話を伺った。

そこは幅一メートルほどの細い流れを遡って尽きたところにあった。あまり大きくない岩の下部の小さな穴から、水が流れ出ていた。岩にはブロンズの名盤が埋め込まれており、そこには、ドイツ語で次のように書かれていた。

DONAU-QUELLE
Hier entspringt Hauptquellfluss der Donau, die Breq, in der Höhe von 1078 m ü.d.M. 2888 km von der Donaumündung entfernt. 100 M von der Wasserscheide zwischen Donau und Rhein zwischen Schwarzem Meer und Nordsee.

（日本語訳：ここよりドナウ川、ブレク川、の本流が始まる。海抜1078m, ドナウ川河口より2888km離れている。黒海と北海に分かれるドナウ川とライン川の分水嶺から100 mである）

話を聞いていて、２０年前にここを訪れた時のことが鮮明に思い出されてきた。４月で、まだ雪が残っていて、この源泉のさらに先を見ると、雪の上には黒い点がずっと奥まで続いていて、１００メートルほど先の林の入り口近くの所で、水がチョロチョロと流れ出ていた。

氏は、ドナウの源流を訪ねた後、ドナウ川に沿って旅を続け、ウルム、パッサウ、ウィーンなどを訪れている。各地での懐かしい楽しい話を聞きながら、又、早くドイツに行きたいとの思いがつのってきた。

西澤講師

茂吉の歌碑は現在このような環境にあります。上山・ドナウエッシンゲン日独友好協会会長提供

懇親会　会員のハンナさんはこのドナウの源泉の近くのご出身です。

３月例会　講演会

「メディア報道の問題点を語る」

講師　西谷　晋氏　（元日経新聞社）

会員　　大久保　明

ドイツ、イギリスでの特派員、国内では外報部デスク、英文日経編集長、テレビ東京の解説委員長など歴任、幅広く報道分野で活躍された講師の興味ある講演でした。

社会人になった時期、第一歩が大阪、その後の欧州駐在が私個人とよく似た環境にあったこともあり興味深く拝聴しました。昨今、情報の在り方、捉え方が我々の大きな関心事となっており大変熱気のある会場でした。

ジャーナリストは一般人とはかなり異なる視点、生活感を持つ人種との印象を持つ方（私もそのうちの一人）も多く、講演の始まりは、その点が濃く出ているように感じられましたが、これには強い興味を持つ方も多く熱心にきいておられました。

本題に入り「メディアリテラシー」の重要性を語られました。「メディアの読み書き能力」即ち「氾濫する情報を選択し理解し自ら発信する能力」を持つことが重要であることを今更ながら思いを深めました。

その背景には、現在の日本の政治、土台となる民主主義の危機意識の希薄、それに対するマスメディアの影響力の衰退、インターネット・メディアの台頭、さらに拡大する格差社会等従来にも増して各自が自ら事実真実を求めることの重要性が要請されました。

日本の民主主義に関して大事な点を次の様な点を挙げています。

・自由で公正な選挙の頻繁な実施
・表現の自由
・多様な情報源（知る権利）
・集団の自由と自立　・全市民の包括的参画

国民として、真実事実の情報を入手する。そのためには表現の自由を守り、知る権利を行使し、自立した判断を行い、市民としての活動に参加することが重要であり、メディアリテラシーを自覚しなければならない。

ジャーナリストとしての環境に関しては、欧米にはフリージャーナリストが多く、夫々が自立しているが、日本ではそのようなジャーナリストは少なく、実際に実地調査や取材が少ないこと、また最近の日本の政治家は政治的能力が劣っているなどとの裏話もありました。

この辺りに、国民の選挙権を行使する意識が非常に低い原因があると思います。政治への参加意識が薄れてゆくことを見逃しているのは非常に危険です。私はその打開策として、国会議員の削減をすべきだと思っております。人口減少にもかかわらず議員数が減らないのはどうにも理解できません。議員の質の向上により、官僚との連携も良くなることを期待しています。

基本的には我々自身が、常に意見を持つようにしなければならない。つまり意見を持たなければ外国人との付き合いは出来ない、今後ますます深まる国際化の中で、自分が、国が存在して行くにはそのことが重要であると強調された。私も同感である。

☆

当日参加者からは次のような感想が届いています。

◆ 普段あまり聞けない、週刊誌のような内容の話があり面白く聞きました。

◆ メディアと政治、メディアとスポンサーの関係や癒着と言った点、選挙民の自覚、基本的には人間としては何が大切な事かを社会生活の中で考える姿勢が大事と理解しました。

西谷講師

会場

懇親会　左から2人目が筆者、４人目が講師

4月例会　講演会

「朗読の窓からのぞいたドイツと日本」

講師 阿部ひろみ氏　東京都荒川区教育委員会
学校図書館スーパーバイザー

会員 中川淑郎

阿部ひろみ先生は弘前市のご出身で、父上が弘前大学のドイツ語の先生ゆえ、出生時にすでにドイツと繋がっていることになります。大学卒業後、横浜市の小・中学校教諭として勤務の傍ら、放送表現教育センターで声優・山内雅人に師事されて朗読（ドラマティック・リーディング）を学び、声優・里見京子、演出家・小林裕、俳優・越村公一の指導も受けられた。また、朗読会「こゑだの会」を主宰され、朗読ライブ「浜千鳥」を立ち上げて活動中で、湘南アカデミアの講座「おとなの朗読レッスン」の講師も兼務されています。

この度のご講義は、いつもとは異なる華やかな雰囲気で始まりました。というのは、阿部先生と司会役・大澤由美子さんは勿論のこと、聴衆の半数を占めるご婦人方（阿部先生のお弟子さんや大澤さんの「お香仲間」）の皆さんが上品な着物を召されていたからです。ちなみに阿部先生の帯の絵柄は「ブレーメンの音楽隊」でした！

講師 阿部ひろみ氏

ご講義の第１部では、ナチズムに屈せず、生まれ故郷・ドレスデンに踏み留まった、 詩人で作家のErich Kästner（1898.2.23-1974.7.29）*の詩集原本のタイトル“DR ERICH KÄSTNERS LYRISCHE HAUSAPOTHEKE”が３人の和訳者三様に下記のように異なっています：

「人生処方詩集」（小松太郎訳、岩波文庫）
「人生処方箋」（飯吉光夫訳、詩の森文庫）
「家庭薬局」（高橋健二訳、かど創房）

さらに中身の翻訳文の相違点についても詳細に比較され、ご自身のコメントを付されました。

第２部では、『東西の「**悩み多き少年の日々**」を聞き比べてみませんか』と題して、

・Hermann Hesse
「少年の日の思い出（高橋健二訳）」
・有島武郎「一房の葡萄」

の２冊をとりあげて、両者のサワリの部分を臨場感溢れる見事な、いわば「朗読のお手本」をご被露されました。

ご講演終了後、阿部ひろみ先生を囲んで懇親会が藤沢駅近くの居酒屋・宗平で行われました。先生はドレスデンが大変お気に入りのようで、話が弾みました。

筆者もドイツ在住の折に同地を数回訪れましたが、Semper歌劇場と、それに隣接するGemäldegalerie Altemeister（古典巨匠絵画館）が一番のお目当てでした。旧ザクセン王国の首都、ドレスデンは「美しい芸術の都」「エルベ河畔のフィレンツェ」と称せられましたが、第2次世界大戦末期の1945年２月13～15日の米英空軍の猛空襲で死者は25,000人、中心部は灰燼に帰しました。筆者が最初に訪問した1998年には、Frauenkirche（聖母教会）前の広場は瓦礫の山でしたが、その60％ほどを３次元ジグゾーパズルのように組み上げて、新教会が2005年に見事に再建されました。日本語のオーディオ・ガイドも用意されています。

脚注（*）

E.Kästnerはゲシュタポによる２度の逮捕、1933年５月10日にBerlin、Leipzigなどの多くの大学都市で発生した「焚書事件」では彼の作品も焼却されるなど、多大な迫害を受けながらも亡命せずにドレスデンに踏み留まったのは、病弱な母親の存在であろう。彼は一人息子であった。（小松太郎氏による）

懇親会　向かって左より筆者と講師

劇場便り 33

ブレーマーハーフェン　志賀トニオ氏

オーケストラピットで演奏する筆者

私がブレマーハーフェン歌劇場に来て今年の３月で１０年目となりました。そして今年の２月～５月はその中でも一番忙しい期間の一つとなりました。忙しくなった理由の一つは、この劇場で初めての試みである野外劇場を６月に催す事にありました。その野外劇場は演劇と合唱が出演し、オペラ部門は参加しないのですが、６月に屋内で公演が行えない影響で、オペラ部門の公演を５月までに詰め込む事になり、多方面でスケジュールがひっ迫してしまったのです。

２月にはマスネ作曲のウェルテルの立ち稽古が始まりました。フランスオペラの傑作で大変繊細な作品です。今回は私の長女が少年少女合唱団で参加しました。この作品は少年少女合唱団が冒頭の３０分程と、終盤の１０分程に出番があり、大変重要な役割を担っています。少年少女合唱団の出番が終盤にあると、子供たちの帰宅が夜の１１時頃になってしまう難しさもありました。 一言Merciというだけですが、小さなソロもあり、とても大きな経験になったようです。

左の写真の向かって右から２番目がトニオさんの長女の円花さん、右は主役の二人

さて、忙しくなった理由は実はこのウェルテルの次の演目Breaking the Wavesにありました。この作品はドイツ初演の現代曲で大変難しく、なにより主役のヒロインが難役でほとんど出ずっぱりなのでした。通常ならウェルテルのプレミエの後、立ち稽古開始まで１週間空きがあるのですが、今回は上記の理由により、２日後に稽古開始、稽古期間も１週間短縮するという条件でした。それが何を意味するかというと、ウェルテルの立ち稽古と並行して、Breaking the Wavesの音楽稽古を集中的にする必要があったのです。問題は、ヒロイン役の歌手が、今シーズンは大きい役の連続で音楽稽古の進捗状況が遅れていた事と、ウェルテルの演出家が細かい所まで徹底的に稽古し、稽古可能な時間をぎりぎりいっぱい使う人だった事です。私達コレペティトアとヒロイン役の彼女は、少ない空き時間を使って、少しづつ稽古を重ねていきました。そんな折にオーケストラ部門のマネージャーから連絡が入り、定期公演の指揮者が一回目の稽古に来られないとの事で、演目が難しく練習回数が少ないと心配だから、その一回目の稽古を私が代振りしてくれないかとの打診でした。正直大変驚いた打診でした。というのは、今までのケースではこのような稽古は必ずキャンセルになっていたので、私にわざわざ打診してくれた事にも意気を感じ、快諾しました。稽古は１週間後、作品はチャイコフスキーとプロコフィエフのそれぞれロミオとジュリエット。チャイコフスキーは日本にいた頃に少しかじった事がありますが、プロコフィエフは第２組曲だったのですが、なかなかの難曲でした。それでも、稽古１回の代振りというのは、日本にいた頃に多く経験していたので、稽古当日は比較的スムーズに進行する事ができました。

さて、その定期公演の指揮者は今回はリューベック歌劇場の音楽監督がゲストだったのですが、公演当日の午前中にゲネプロ（最後の通し稽古）があり、私の同僚がピアノとチェレスタパートを弾いていました。それと並行して、私はBreaking the Wavesの稽古でピアノを弾いていたのですが、その稽古中にまたしてもオーケストラのマネージャーが現れ、ゲネプロ中にピアニストが気絶して倒れたから私に代わりを弾いて欲しいとの事。急いで稽古場に向かうと、今はヴァイオ

リン協奏曲の稽古中との事。上記の２つのロミオとジュリエットは曲をすでによく知っていましたが、こちらのヴァイオリン協奏曲は全く未知の作品で、しかも曲の途中から参加し、何が何やらわからず四苦八苦。稽古が終わって夜の本番まで少し時間があったので急いでこの作品について調べました。中国人の作曲家の作品で、民族楽器である胡弓をヴァイオリンで再現する事を試みた作品で、胡弓独特の滑らかなグリッサンドの効果をヴァイオリンで表現した２０分程の曲でした。ピアノパートは出番は少ないのですが、弾く所はソリスティックで目立つのでやっかいでした。というのは、休みが数100小節あり、10小節弾いたらまた数100小節休みというパートで、稽古に参加していれば問題ないのですが、実質ぶっつけ本番なので、とにかく正しい箇所で弾き始める事が出来るように、YouTubeの映像を見て勉強しました。そして夜の本番、なんとかミスなく終了！３回本番があったので、３日目には音楽的にも表現する余裕が生まれました。その後同僚のコレペティトアはしばらくの間休養することになったので、Breaking the Waves の立ち稽古は私一人で担当する事に。その Breaking the Waves も無事プレミエを終了し、この作品の３日目の公演前日、またオーケストラのマネージャーから電話がありました。今度はハープ奏者が病気になったから、代わりにキーボードでハープパートを弾いて欲しいとの事！この本番は私のハープデビューとなりました！！

☆　☆　☆　☆　☆　☆

新入会員紹介　敬称略

クーデンホフカレルギー まゆみ
島　晃子

年会費納入のお願い

本年度（令和５年）の年会費を未だ納付されていない方は、どうぞお忘れなくお願いします。

編集後記

本年度第１号（通算140号）をお届けします。今回より通しの番号のみと致しました。情報誌としてどうあるべきか皆さんと考えて行きたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。（大久保）

湘南日独協会Bierfest申し込み受付中

湘南日独協会 BIERFEST-2023
飲んで歌って楽しもう！

日時：7/19(水)
17:00～20:00
会場：イタリアレストラン
“TANTO　TANTO”
会費：6,000円
概要：イタリア料理と飲み放題
音楽は生バンドではありません。
BGMに合わせて歌います。
参加申し込み、問い合わせ先：
湘南日独協会事務局　0466-26-3028
jdgshonan.official@gmail.com

申込フォーム

湘南日独協会主催

秋のミニコンサート

日時：2023年10月21日(土) 14:00~16:00
会場：藤沢市民会館２階　第１集会展示 ホール
会費：2,000円

「出演予定演奏家」
ピアノ　：　高橋愉紀
ヴァイオリン　：　松野美智子
（ピアノ伴奏：高橋愉紀）
古箏　：　伊藤志津子
アルプホルン　：　鬼久保洋治
湘南日独協会混声合唱団アムゼル
（指揮：梶井智子、ピアノ伴奏：内海祥子）

「演奏予定の曲目」

高橋愉紀
ラフマニノフ　プレリュード
作品３の２　cis-mol
ラフマニノフ　楽興の時
作品１６の１　b-moll 他

松野美智子
ヴィターリ　シャコンヌ（シャルリエ版）
ハチャトリアン　“ノクターン”　他

伊藤志津子
「採茶捕蝶」「雪山春暁」

鬼久保洋治　曲目未定

混声合唱団アムゼル
曲目未定ですが、予定４曲、会場の皆様とご一緒にを２曲予定しています。

湘南日独協会混声合唱団アムゼルと湘南オクトーバーフェストを振り返る

名誉会長　大久保　明

湘南オクトーバーフェストの始まり

２００７年９月８日（土）藤沢市民会館第一展示室で、第１回の湘南日独協会のオクトーバーフェストが開催されました。これに勿論アムゼルは参加、合唱を披露するとともに大いに歌い、踊り、飲みました。

それまでの、**湘南ドイツフェア**が、**“ドイツとビール”**であれば、**“オクトーバーフェスト”**であると、日本ではまだ広く知られていない名称に変えての第１回でした。

混声合唱団アムゼルの誕生

湘南日独協会は1998年設立され、ドイツ・フェアで皆で歌おうとの趣旨で、2003年には混声合唱団アムゼルが結成されました。

ドイツ・フェア以前の段階から、梶井龍太郎先生智子先生のお二人とお知り合いだった吉田社長が、早速智子先生にご指導をお願いし、練習が始まりました。私はまだ、現役の東京への通勤でしたので、アムゼルへの参加は数年遅れました。

横浜赤レンガ倉庫での オクトーバーフェストへの出演

横浜の赤レンガ倉庫でのオクトーバーフェストが開催されたのは全国的に早く、広告会社博報堂がプロデュースし、2003年にテント張りで開催された。翌年から３年にわたって、ミュンヘンからの本場の楽団と一緒にステージに立ち、アムゼルも知名度を上げました。

2019年のオクトーバーフェスト

日独交流１５０周年記念祝賀会で演奏

２０１１年１０月ドイツ大使館主催の記念祝賀会において、大使館に隣接する有栖川宮記念公園特設舞台での演奏団体に選ばれ演奏しました。

SWZドイツ語で歌おうの会の発足

オクトーバーフェストでの楽しさを覚えた会員から、楽譜は読めないがオクトーバーフェスト（OKF）らしい曲をOKFで歌いたいとの希望が寄せられ、木原理事（現在副会長）の提案で、SWZ（Singen wir zusammen!)が２０１２年９月発足。以来、OKFでもバンドに合わせて歌い楽しさ倍増です。毎月の会では、OKF向きの曲だけでなく、Polkaや現代曲も取り上げて、ドイツ語の歌詞の説明に加えて、その曲にまつわる様々な、地域・歴史・習慣等の解説のほか、ドイツ語の歌詞をメロディーに乗せる方法の指導もあります。

昨年は、オクトーバーフェストの開催はありませんでしたが、SWZのメンバーは、レストランの借り切りで、料理と歌を楽しみました。

今年も既にお知らせしているように、準備しています。ご関心のある方は是非お問い合わせください。前のページに詳細の記載があります。

左写真は昨年のレストランでのSWZオクトーバーフェストの一場面

2018年のアムゼルとSWZの皆さんとカペレ

湘南日独協会催事カレンダー(2023年6月～2023年10月）06月01日現在の情報です

6月	６月の行事は項目のみ記載。詳細は前号３月号に記載：				
	見て聴いて楽しむ音楽史	8日（木）	14:30-16:30	江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア	会費1,000円
		演題：東欧の国民楽派（スメタナ、ドヴォルザーク）			
	談話室SAS	13日（火）	15:15-17:15	江ノ電第2ビル 4階	会費：1,000円
	SWZ	15日（木）	15:00-17:00	ミナパーク５０７	会費：1,000円
	読書会	6日（火）	15:00-17:00	ミナパーク５０５	会費：1,000円
		20日（火）	15:00-17:00	ミナパーク５０５	会費：1,000円
	講演会	25日（日）	14:30-16:30	江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア	会費1,000円
7月	見て聴いて楽しむ音楽史	6日（木）	14:30-16:30	江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア	会費1,000円
		演題：北欧の国民楽派			
		講師：高橋善彦氏　（会員　湘南日独協会理事）			
		取り上げる曲：シベリウス、他			
	読書会	4日（火）	15:00-17:00	ミナパーク５０５	会費：1,000円
		18日（火）	15:00-17:00	ミナパーク５０５	会費：1,000円
	談話室SAS	11日（火）	15:15-17:15	江ノ電第2ビル 4階	会費：1,000円
	SWZ	14日（金）	15:00-17:00	ミナパーク５０７	会費：1,000円
	Bierfest	19日（水）	17:00-20:00	イタリアレストラン ″Tanto Tanto″	会費：6,000円
	講演会	23日（日）	14:30-16:30	江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア	会費1,000円
		演題：　ヘルマンヘッセ「少年の日の思い出」とその初稿「クジャクヤママユ」			
		講師：　岡田朝雄氏　（ドイツ文学者、東洋大学名誉教授）			
		概要：　我が国の中学国語の教科書に７０年以上掲載され続けているのに、ドイツではあまり有名でないこの小説について、「クジャクヤママユ」という訳語に変更された経緯などを含め、語って頂きます。			
		懇親会：有り			
8月	読書会	1日（火）	15:00-17:00	ミナパーク５０５	会費：1,000円
9月	見て聴いて楽しむ音楽史	7日（木）	14:30-16:30	江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア	会費1,000円
		演題：未定			
		講師：高橋善彦氏　（会員　湘南日独協会理事）			
		取り上げる曲：未定			
	読書会	5日（火）	15:00-17:00	ミナパーク５０５	会費：1,000円
		19日（火）	15:00-17:00	ミナパーク５０５	会費：1,000円
	談話室SAS	12日（火）	15:15-17:15	江ノ電第2ビル 4階	会費：1,000円
	SWZ	21日（木）	15:00-17:00	ミナパーク５０７	会費：1,000円
	講演会	24日（日）	14:30-16:30	江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア	会費1,000円
		演題：　子規の遺したもの			
		講師：　藤野　満氏　（会員　湘南日独協会）			
		概要：　俳句や短歌を革新した明治の文学者正岡子規は、脊椎カリエスという重い病で３６歳の短い生涯を終えた。子規の縁者で幼少の時から子規の生涯に接してきた講師が、遺されたものを紹介し、現代の生き方への参考を念頭に語る。			
		懇親会：有り			
10月	10月の行事は項目のみ記載、詳細は９月に発行予定の次号に掲載予定：				
	見て聴いて楽しむ音楽史	5日（木）	14:30-16:30	江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア	会費1,000円
	読書会	3日（火）	15:00-17:00	ミナパーク５０５	会費：1,000円
		17日（火）	15:00-17:00	ミナパーク５０５	会費：1,000円
	談話室SAS	10日（火）	15:15-17:15	江ノ電第2ビル 4階	会費：1,000円
	SWZ	19日（木）	15:00-17:00	ミナパーク５０７	会費：1,000円
	ミニコンサート	21日（土）	14:00-16:00	藤沢市民会館	会費：2,000円
	講演会	22日（日）	14:30-16:30	江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア	会費1,000円
		演題：　調停委員回顧　ー　家族法改正のうねりが続く			
		講師：　笹　信夫　（会員　湘南日独協会）			
		概要：　日本の家族法は、女性の地位向上を図るものなど、画期的で特筆に値する改正が行われた。一方、ライフスタイルの多様化、技術の進歩は、さらなる改正を求めている。			
		懇親会：有り			
	藤沢国際交流フェスティバル	29日（日）	11:00-15:00	ＪＲ藤沢駅北口　サンパール・サンパレット広場	

参加される皆様へ　　参加人数を制限する場合があります　早めにお申込ください

来場の際はマスク着用をお願いします

懇親会は、講師を含め6名、最大8名に人数を制限させて頂きます

各催しは変更される場合があります　最新の予定を当協会のホームページでご確認ください

URL ： https://jdg-shonan.ciao.jp/　　右記のQRコードからもアクセス出来ます